会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和7年度第1回相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604 (直通)		
開催日時		令和7年5月15日(木) 午後6時30分～8時		
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	2人(生涯学習課職員)		
	事務局	10人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他7人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 議題 (1) 令和7年度の主な取組について (2) 令和7年度の予算について 2 報告事項 淵野辺駅南口周辺まちづくりの取組状況について 3 その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

2 報告事項

淵野辺駅南口周辺まちづくりの取組状況について

(大谷会長) 本日の議題は次第にございますとおり、議題が2つと報告事項が1つございます。次第上は、「1 議題」からとなっておりますが、「2 報告事項」の「淵野辺駅南口周辺まちづくりの取り組み状況について」は生涯学習課からの報告事項となりますので、先にこの件についてご報告をお願いしたいと思います。それでは事務局より報告をお願いします。

生涯学習課及び事務局から資料に基づき説明し、質疑応答を行った。

(渥美委員) 前回の説明からアップデートされた部分はどこでしょうか。

(生涯学習課) 前はまちづくりビジョンに基づいてご説明をさせていただきました。基本の考え方は変わりませんが、例えば導入機能について、まちづくりプランでは図書館機能を中心とした連携の図を追加させていただきました。また、7ページの施設の想定規模について、今まではまちづくりビジョンの中で7,500㎡程度とお伝えしていましたが、特に複合化後の想定規模、8ページの貸室の性能イメージ、子どものためのスペース等を細かく記載しました。図書館についても同様に、より詳細に記載しています。

(金子委員) 現在の図書館の場所が駐車場のゾーンになりますか。現在の公園を生かして作られるんですね。複合施設のゾーン以外のところ、例えば交通公園や池、芝生等については現状を大きく変えず複合施設を作られるのでしょうか。

(生涯学習課) はい、鹿沼公園の現在の良さを生かした形で整理をしていきたいと考えております。白鳥池や児童交通公園は市民の方から愛されておりますので、そういった部分を生かしながらいリニューアルを行っていききたいと考えています。

(金子委員) 桜は伐採してしまうのでしょうか。

(生涯学習課) 巨木化・老木化している木もあり、中には整備をしなければならない木もございます。現状の木は可能な限り大事にしながら新しい木を植える等の計画をしていききたいと考えています。

(小山副会長) 8点あります。

まず、資料3の6ページの図を加えた旨をご説明いただきましたが、図書館が真ん中にあり、そこがハブの機能を果たして複合施設全体を有機的に繋ぎ、かつ、市民の方々のためにサービスを提供する形を提案いただいたことがとても嬉しかったです。図書館の活動に期待しています。

2点目が、5ページの3-2(1)アの(イ)の地域図書館機能の中に「地域の課題に応じた事業」とありますが、地域の課題をどのように設定していくのかというのが気になりました。

3点目として、10ページの4-2「想定される公民役割分担」ですが、この中には文化的な側面あるいは市民生活への支援は見えますが、ビジネスへの関心が見えません。図書館では近年、課題解決支援と称してビジネスに注目したサービスを展開していますし、医療健康情報の提供もその1つです。図書館における課題解決支援といわれているテーマをこの複合施設で実現しないとすると、この地域、あるいは相模原市全体として、どのように展開していくのでしょうか。相模原市全体の中でそれぞれの公共施設が担うことに関してイメージを持てると、ここに記した内容が妥当であるかどうか判断しやすくなると思います。

4点目が、5ページの3-2(1)イの(ア)「開架スペース」の中に「ICTの活用」がありますが、DXをさらに進めて市民の方々がデジタルを活用できる場が見えませんでした。業務ベースでのICT活用だけでなく、市民の方が利用できる施設設備があってもよいと思いました。

それに関連して8ページの(2)の「ウ 子どものためのスペース」に「静かに遊ぶエリア」の「性能イメージ」として「工作等が可能」とありますが、静かに工作するというイメージがなく、どちらかと言えば賑やかに行うイメージを持っていました。「工作」にはメーカースペースをはじめ、ものづくりの体験・経験を謳うようなものが想像されます。また、その実現は、子どもだけでなく大人も含め、広く一般市民全般に渡る話だと思いました。ICTと合わせて「ものづくり」等、複合施設全体の中でどのように位置づけられるのかを期待します。

6点目として、9ページの(3)にある「開架スペース」の「読書、学習、調査・研究等のエリア」に含まれると思いますが、次期図書館は中央図書館機能を担うことになるので、相模原市をもっとアピールできるような展示やスペース、「あそこにいけば相模原市のことが全部わかる」とか、逆に「あそこに行くと、相模原市はこういう街だったんだ」というような、相模原市を見せる魅力的な資料群を保存するのはもちろ

ん、それを活用できるサービスを期待したいと思いました。

また、同じ表の「管理・運営のためのスペース」に「図書整理室」などが記載されていますが、これ以外に、事務的な機能を行うスペースも当然用意されることを念のため確認します。

最後が、10ページの「4-2 想定される公民役割分担」の中の図書館機能が、市直営であることに安心感を覚えました。

(事務局) ご意見をいただきました中で、まず「市のことをもっとアピールできるスペース・展示」について、現状ですと地域資料と行政資料のコーナーがありますが、もう少し市民の皆様にも目につきやすい場所に展示等でアピールできるような書架や、配置が出来ればと考えております。

続きまして、5ページ目の「課題に応じた事業」の課題の設定について、図書館でも市の大きな課題については把握している部分もございますが、逆に地域の課題、中央区での課題についてはなかなか図書館だけでは把握しきれない部分もございします。公民館も含めて、様々な施設が複合する利点を生かし、他の施設と連携しながら課題を探り、事業を展開できればと考えております。

また、5ページ目にある「ICTの活用」の中で市民の方がどのようにデジタルの活用ができるのかにつきましては、これから図書館システムの検討もございしますのであわせて検討できればと考えておりますが、情報リテラシーの取組が今まであまりできていなかった部分があるので、これからの要求水準作成や図書館システムのリニューアルの中検討してまいります。

(生涯学習課) 子どものためのスペースの性能イメージで「工作」を入れさせていただきましたが、子どものためのスペースなので「静寂」ということではなく、「アクティブに体を動かす空間よりは静か」という程度をイメージしていただきたいと思います。大人向けにもアトリエがあり、工作等ができるようになっていきますので、こちらを体験スペースとして活用できるのではないかと考えております。

(小山副会長) アトリエは「貸室」の位置づけであり、その運用は公民館的な要素を含んでいるように思われます。他方、気軽に個人が来て利用できるという、つまり図書館の間口が広いというのはそういうことだと思いますが、そういったものも視野に入れて上手に運営できたらと思いました。

(大谷会長) ICTやDXは個人的に市民の方々の活動を助けるような簡易製本や大判印刷など文化活動を助けるような機能を期待したいです。

(金子委員) 9ページの録音室とはどういった機能を持った部屋でしょうか。

(事務局) 9ページの「対面朗読室及び録音室の機能」につきまして、まず対面

朗読室は図書館が行っている対面音訳サービスに使用する部屋で読み上げるサービスをしておりまして、具体的には視覚障害の方に本や資料を読むスペースになりますが、現在は視聴覚室等の他の部屋で代用しているので、複合施設では相談室の機能の中で整備したいと考えております。録音室は障害者サービスに関連するものになりますが、録音者の方が音声で資料を読み上げて、音声資料を作る活動をしている団体もございまして、そうした方々が活動できる部屋としてスタジオ等の防音仕様の諸室が活用できればと考えております。

(渡辺(裕)委員) 10ページの「想定される公民役割分担」の中で、貸出・返却等の図書館運営業務が直営とされている一方で、窓口業務はこれまでどおり委託を考えているというご説明でした。「窓口業務」というと貸出・返却のイメージがありますが、直営と委託業務でどのような違いがあり、業務の線引きをしているのでしょうか。

(事務局) 貸出・返却など市民に対して行うサービスの運営業務は現在も委託しております。直営部分としましては、中央図書館としての全市的な図書館の管理や新たなサービスの企画、複合施設の中での他の施設と連携した事業検討を想定しています。

(渡辺(裕)委員) 今もそういった部分は直営でされていますか。

(事務局) 現在もそれらの企画・統括的な機能は直営で行っています。中央図書館としての計画の部分は引き続き直営を検討しております。

(渡辺(裕)委員) おはなし会は直営でしょうか。それとも民間に委託されていますでしょうか。

(事務局) 市立図書館に関しては市の職員が担当している部分もございまして、委託業者が担当している部分もございまして。

2 議題

(1)令和7年度の主な取組について

事務局から資料に基づき説明し、質疑応答を行った。

(渥美委員) 要求水準書はどこに提出するのでしょうか。

(事務局) 運営業務の水準や施設の設計書を作成するための仕様書のようなもので業者に提示するために作成しているものです。

(渥美委員) 市の内部ではなく外部に提出するのでしょうか。

(事務局) 内部の審議を経て、最終的には事業者に向けて外部に公開するものです。

(渡辺(裕)委員) 質問というより感想ですが、相模大野のペDESTリアンデッキの返却ポストが継続するのはありがたいです。もしかしたら無くなるかもし

れないと伺っていました。自分が普段相模大野図書館を利用しており、返却のために相模大野駅までは買い物ついでに行きやすいのですが、そこを超えて図書館まで行くとなると自分の中でハードルが高くなってしまい本を借りることを諦めてしまいます。ですが、これが継続されると、図書館に借りに行くことが自分の中でレジャーのような気分になっているところがあるので、すごくありがたく助かります。

(事務局) 令和6年度の実績は、58,000冊程度、一日当たり平均170冊程度とかなり利用頻度が高いです。今まで相模大野駅から図書館までまわり道をしていましたが、来年1月末に公共歩廊が完成すれば相模大野駅から真っ直ぐ来館することができます。ただ、公共歩廊が完成したことで返却ポストの利用が減少すれば再度検討が必要ですが、現時点では当面の間は継続して様子を見ます。需要が引き続きあれば継続し、減少すればそのタイミングで再検討します。

(渡辺(裕)委員) 公民館等の図書室もあり、自分の身近な施設でも返却することができるため、相模大野駅から返却ポストが無くなると寂しくなりますが、継続と聞いて安心しました。

橋本図書館のSIC(さがみはら産業創造センター)からの寄贈図書の受入の件でビジネス支援の施設から寄贈を受けておりビジネスマンが借りているとのことでした。図書館は図書の専門家でありSICはビジネスの専門家だと思います。その分野の専門家に選書していただくことで、この分野の図書の裾野が広がるのではないかと思います。

(渥美委員) 起業家支援と図書館がリンクして、例えば、外部講師を招いて何かイベントを打ったりとか、そういった試みができたら非常に開かれた図書館になるのではと期待しています。

(事務局) 連携したイベントや講座の実施について、SICにお声がけしている状況です。

(小山委員) 事実確認4つと意見1つです。

はじめに意見です。相模大野図書館は無事にデッキができる予定であるとうかがえて、良かったです。

事実確認の1つ目は2ページ目の「3 図書館DXの推進に向けた取組」について、「次期システム更新に合わせて」とありますがその時期はいつを予定していますか。また、何年ごとに更新していますか。

2つ目は同じページの「4 市立図書館相武台分館のあり方検討」について、令和7年度取組予定として相武台分館の件が継続検討とありますが、おおよそいつ頃を目安に検討を進めていますでしょうか。

3つ目は3ページの6の2つ目で、ビジネス関連図書の寄贈について

お話がありました。図書館は人気図書が書棚で見ることができないのが大きな課題です。これに関して、なにか工夫されていることはございますか。

4つ目は、同じページの「こどものほんのコーナー「生きもの写真家松橋利光さんのパネル展示」と本の紹介」について、私自身、見てみたいと思うくらい興味深く感じましたが、松橋さんの展示パネルの中に相模原市の生き物の写真は含まれていますでしょうか。教えてください。

(事務局) 1点目の図書館DXについて、図書館システムはリースで4年間契約しておりまして、令和11年度に新しい図書館が完成することを見込んで、その前にシステムを完成させ、新システムの運用を開始することを検討しております。

2点目の相武台分館のあり方検討について、今年度中を目途にいろいろなことを決めていきたいと思いますと言われていたところです。

3点目のビジネス関連図書の寄贈について、一旦はS I Cで展示して企業の方に見ていただき、期間が終わると橋本図書館に展示するのですが、154冊が一度に来るわけではなく細切れに来ることになりますので、入れ替えながら排架を進めています。

4点目の松橋利光さんのパネル展示は、今実施している「ワレワレはアマガエル」のパネル展示については相模原市内の写真も含まれています。

補足ですが、橋本図書館は開館当初からビジネス支援に力を入れているところですが、入口入ってすぐの1番目立つところにS I Cのコーナーを作っており、その裏側にビジネス支援本の別置をしている。そうした工夫によりそちらにも誘導しています。

松橋さんの本は、今回の『ワレワレはアマガエル』は、課題図書に選ばれています。パネル展示されている写真が本になるとこんな感じになるんだと手に取るように見えるようにしています。来年橋本図書館は25周年を迎えるため、松橋さんと協力して何かイベントができないか検討しています。

(2) 令和7年度の予算について

事務局から資料に基づき説明し、質疑応答を行った。

(渥美委員) DXを進めるうえで図書館システムが非常に減額しているとのことですが解説をお願いします。

(事務局) 昨年度図書館システムの中の機械の更新を行いました。昨年度はコンピュータの機械を設定する委託の費用を予算として積算しておりました

ので、その分が今年度に関しましては減額になっております。今後、ソフトウェアのシステム部分の更新を控えております。その際には査定を受けたうえで図書館システム本体の更新の費用の確保に努めてまいります。

3 その他

(大谷会長) 今年の図書館協議会の運営について事務局で2点ほどご検討いただきたいことがあります。

1つ目は図書館評価の件です。基本計画に基づいて図書館評価を実施することとなっていますが、第2次基本計画を立てた直後に新型コロナウイルス感染症が流行し、前提状況が色々変わる中にもかかわらず計画が出来上がってしまってるという状況が続いています。結果として、指標の達成状況が思わしくないと思います。我々も総合評価としてはあまり良い評価を付けられませんし、目標の下方修正などを行うことはどうなのかという意見もあるかと思いますが、一方で、あまりにずっと達成できないという評価のみで細かい精査ができないということよりは、もう少し現実に合わせて基本計画の指標部分をご検討いただき今年度の図書館評価の前にお話しいただけたらと思います。

2つ目は協議会の開催の時間についてです。出席率が低下気味なので、委員の皆様のそれぞれのお立場もあるので皆様にお尋ねいただいて、現状としては概ね平日の18時半から20時までという形で行っていますが、他の可能性はないのか探っていただけたらと思います。

(事務局) 開催時間について個別にお伺いできればと思います。

以 上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	大谷 康晴	青山学院大学教授	出 席
2	副 会 長	小山 憲司	中央大学教授	出 席
3	委 員	佐藤 玲子	相模原市立小学校長会	出 席
4	〃	渡部 賢一	相模原市立中学校長会	欠 席
5	〃	金子 友枝	相模原市社会教育委員会議	出 席
6	〃	渡辺 晃子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
7	〃	松浦 浩樹	和泉短期大学教授	欠 席
8	〃	渥美 聡一郎	公募	出 席
9	〃	渡辺 裕子	公募	出 席